

From *Trimalchio* to *The Great Gatsby*

稗方康夫

## 序論

本稿では、F. Scott Fitzgerald の代表作である *The Great Gatsby* (以下 *Gatsby* と記す) の伝記的背景と執筆過程について考察したい。執筆過程と原稿の書き直しに関しては、その Early Version として 2000 年に出版された *Trimalchio* を主に参照したい。この *Trimalchio* は完成した作品として編集者 Maxwell Perkins に提出されており、Fitzgerald の3作目の長編小説として世に出ることもありえたものである。しかしその段階から今日広く読まれている *Gatsby* に至るまでにはかなりの加筆、訂正や章の入れ替えなどが行われている。このような書き直しの内容をたどってみることは、Fitzgerald が最終的にどのような作品を目指して執筆していたのかを探るひとつの有効な手段といえるだろう。また、*Gatsby* 以前に書かれた主要な短編にも比較対象として言及したい。

## Bibliographical Backgrounds 1922-1925

前作 *The Beautiful and Damned* はやや自然主義的な傾向のある作品であり、批評もあまり好意的ではなかった。また Fitzgerald は、*The Beautiful and Damned* の出版後、*Gatsby* の構想はすでに始めていながらも、初の戯曲である *The Vegetable* の公演のために執筆はなかなか進まなかった。しかし *The Vegetable* は失敗に終わり、期待していた興行収入を得ることもできなかった。この失敗により戯曲を断念した Fitzgerald は、新しい長編小説つまり *Gatsby* の成功のために並々ならぬ熱意と野心を燃やしていたはずである。<sup>(1)</sup> また、Fitzgerald は *Saturday Evening Post* などの雑誌に読み物としては面白いが文学的な評価を受けることのない短編小説を多く寄稿しており、その原稿料を主な収入源としていた。文学性の高い長編小説を発表することで、流行作家、短編作家という不本意な評価を返上したいと思ってもいたことだろう。

## About the Title *The Great Gatsby*

*The Great Gatsby* というタイトルの決定までには試行錯誤があり、出版後も Fitzgerald はあまり気に入っていなかったようである。Fitzgerald は *Under the Red, White, and Blue* というタイトルに変更しようとしたが、それは印刷の都合で間に合わず、また Perkins の反対もあり、結局 *The Great Gatsby* という題名を冠して出版される運びとなった。<sup>(2)</sup> そこでまず、“under the red, white, and blue” という言葉の意味について考えてみたい。

この3つの色はアメリカの国旗である星条旗に使われている色である。そして *Gatsby* の作品中でこの表現が使われているのは第4章、Kentucky 州 Louisville にある Daisy Fay の豪邸を描写する場面であり、どこよりも大きな星条旗が彼女の豪邸の上にはためているのである。

I [Jordan Baker] had on a new plaid skirt also that blew a little in the wind, and

whenever this happened the red, white, and blue banners in front of all the houses stretched out stiff and said tut-tut-tut-tut, in a disapproving way.

The largest of the banners and the largest of the lawns belonged to Daisy Fay's house. (*Gatsby*, 59)

そして戦争から帰ってきた Gatsby は、Daisy が Tom Buchanan と結婚してしまい、すでにそこにはいないとわかっていながらもふたたび Louisville を訪れずにはいられなかった。そして街は Daisy の家と同じようにいつまでもその美しさを失わなかった。

Just as Daisy's house had always seemed to him more mysterious and gay than other houses, so his idea of the city itself, even though she was gone from it, was pervaded with a melancholy beauty. (119)

このように Gatsby にとっての Daisy の豪邸は、彼女の裕福さ、Golden Girl としての象徴であり、最後までその価値を失わなかった。また Gatsby 自身も3年の年月をかけ巨額の財産を投じて、Daisy の豪邸と同じように立派な芝生のある豪邸を West Egg に購入する。Fitzgerald が出版の土壇場に来て *Under the Red, White, and Blue* というタイトルに変更しようとしたのは、星条旗を掲げた Daisy の豪邸が、ギャツビーが目指した成功のひとつの象徴だったからではないだろうか。

次に、Daisy の豪邸とこの時期に書かれた短編“Sensible Thing”の関係を見てみたい。“Sensible Thing”は“Winter Dreams”に次ぐ Gatsby Cluster Stories とされており、主人公 George O’Kelly と Gatsby の類似点や相違点を指摘する研究者も多い。ここでは、Daisy の住んでいた豪邸と“The Sensible Thing”のヒロイン Jonquil Cary の家を比較してみたい。

O’Kelly は給料の安い保険の仕事をしてながら休暇をとっては Tennessee 州にある Jonquil の家を訪れていたが、Gatsby と同様に恋人と結婚できるほど金持ちではなく、結局二人は破局してしまう。しかし O’Kelly はかねてから憧れを抱いていた建築業で財を成し、再び Jonquil の家をおとずれる。しかし Jonquil の家は、O’Kelly がかつて感じていた偉大さを失っていた。

The house loomed up suddenly beside him, and his first thought was that it had assumed a strange unreality. There was nothing changed – only everything was changed. It was smaller and it seemed shabbier than before – there was no cloud of magic hovering over its roof and issuing from the windows of the upper floor. (*The Short Stories of F. Scott Fitzgerald*, 298)

このように、恋人の住んでいた邸宅に対する主人公の幻想が失われるか最後まで持ち続けているかという点は Gatsby と O’Kelly の相違点ということができる。そして最後まで

幻想を失わなかった *Gatsby* とは違い、O’Kelly は “But for an instant as he kissed her he knew that though he search through eternity he could never recapture those lost April hours.” (301) とあるように、最終的に失われた過去は帰ってこないのだと実感する。

O’Kelly は the mutability of Love を知るが<sup>(3)</sup>、最後までそれを実感しない *Gatsby* にとって、星条旗の下にある Daisy の豪邸と Louisville は追憶の対象であり続けたのである。

### Gatsby’s Boyhood and “Absolution”

3 作目の長編小説執筆にあたり、Fitzgerald には主人公の少年時代からはじめようかという構想もあった。<sup>(4)</sup> しかし実際には *Gatsby* は West Egg の豪邸に住み、パーティーを繰り返す人物として作品は語りはじめられている。そして少年時代のエピソードは切り離され、短編 “Absolution” として発表されたことは広く知られている。

しかし、ここで *Gatsby* から “Absolution” へと切り離されたのは主人公の少年時代だけではない。“Absolution” においては主題のひとつでもある Catholic element が分離されたのだ。Fitzgerald は構想の時点では、3 作目の長編には Catholic element を入れたいと考えていた。<sup>(5)</sup> しかし実際には完成した長編では Catholic element はほとんど見られない。

それでは “Absolution” と *Gatsby* には共通点はないのかということそうではない。父親に強制されて行った告解で、主人公 Rudolph Miller 少年は “he admitted his violations of the Six and Ninth Commandments.” (*Short Stories*, 261) と十戒の第六と第九を犯したことを告白するつもりでいながら、実際には “Rudolph had never committed adultery, nor even coveted his neighbor’s wife” (261) なのである。一方で *Gatsby* は実質的にこの二つの罪を犯していながらも罪悪感を持っていないというのは奇妙な対照をなしている。

さらに、*Gatsby* と Rudolph Miller は、「神と関係ないところに “gorgeous” な何かがあると信じている」<sup>(6)</sup> という共通点がある。作品中に流れる “Catholic element” の密度は異なりながらも、主人公の “Catholic element” の欠如、あるいは神の不在という点において、この二つの作品は深く結びついているといえる。

### Characterization of Jay Gatsby

Jay Gatsby の人物設定は、Tom Buchanan や Daisy に比べると、はじめは満足のいくものではなかった。確かに Tom や Daisy は登場したときから鮮やかな個性や特徴を読者に印象付ける。Tom はそのたくましい肉体と横柄な話し方などに、Daisy は特にその声と話し方に個性が与えられている。それに比べると *Trimalchio* 時点での *Gatsby* の描写は少々個性に欠けていたのも事実である。そこで *Gatsby* に他の登場人物たちに負けないような個性を与えようということになる。

そのひとつとして、言葉による特徴を付与しようということで、有名な “Old sport” と

いう口癖が与えられる。この口癖は Max Gerlach という人物からきているという説がある。そしてこの “Old sport” という口癖は pencil draft の時点では 1 箇所だけしか使われておらず、Gatsby の人物像を特徴付けるものではなかった。<sup>\*(7)</sup>

そして次には、Perkins の提案<sup>\*(8)</sup>もあり、Gatsby の話し方や口癖によらない特徴を付与することになる。そこで書き足されたのが understanding smile である。<sup>\*(9)</sup> *Trimalchio* には Nick Carraway と Gatsby が会おう場面でこの smile は書かれていない。まずは *Gatsby* での対面の場面を見てみたい。

"I'm Gatsby," he said suddenly.

"What!" I exclaimed. "Oh, I beg your pardon."

"I thought you knew, old sport. I'm afraid I'm not a very good host."

He smiled understandingly—much more than understandingly. It was one of those rare smiles with a quality of eternal reassurance in it, that you may come across four or five times in life. It faced—or seemed to face—the whole external world for an instant, and then concentrated on you with an irresistible prejudice in your favor. (*Gatsby*, 40)

続いて、*Trimalchio* での対面の場面を見てみたい。

"I'm Gatsby," he said suddenly.

"What!" I exclaimed. "Oh, I beg your pardon."

He was only a little older than me – somehow I had expected a florid and corpulent person in his middle years – yet he was somehow not a young man at all. There was a stiff dignity about him, and a formality of speech that just missed being absurd, that always ... (*Trimalchio*, 41)

このように、2つの対面の場面を比べると、*Gatsby* での Gatsby のほうが強く Nick あるいは読者の印象に残る登場をしているのがわかる。*Trimalchio* では、Nick の少し年上くらいだが若さのない人物という程度の印象である。微笑みだけで初対面の相手に “a quality of eternal reassurance” (*Gatsby*, 40) を与える人物として描かれている *Gatsby* での鮮烈な登場と比べると、*Trimalchio* では印象が薄いといえるだろう。

### The Revelation of Gatsby's Business

*Trimalchio* 時点での作品の弱さは Gatsby がいかにして富を得たか、つまり Gatsby の仕事の不明瞭さにあると Perkins は指摘した。Perkins は説明不足が作品の欠点になりえると考えていた。<sup>\*(10)</sup>

その懸念どおり、その弱さは作品のあらゆる場面で露呈されていたが、その多くは *Trimalchio* から *Gatsby* への書き直しで改良された。以下にいくつか実例をあげたい。

*Gatsby* では、Gatsby が Daisy との再会に先立って庭の芝生を刈らせほしいと Nick に

申し出たあと、少し考え込んでから仕事を紹介しようとする。

"Well, this would interest you. It wouldn't take up much of your time and you might pick up a nice bit of money. It happens to be a rather confidential sort of thing." (*Gatsby*, 65)

しかし Nick はこれを“the offer was obviously and tactlessly for a service to be rendered”(65)と思って断るが、後になってからは“under different circumstances that conversation might have been one of the crises of my life”(65)とまで考えている。*Gatsby* は Nick の考えを察したのであろう、“You wouldn't have to do any business with Wolfshiem.” (65) といい、自分の申し出が危険なものではないことを主張する。それが理由で断っているのではないと Nick はいっているが、実際にはこのとき自分が犯罪に巻き込まれることを多少は警戒したのではないだろうか。

ところが *Trimalchio* においては、芝生についてのやりとりがあったあと電話で Daisy をお茶に誘う場面に移ってしまい、*Gatsby* が Nick に仕事を紹介することはない。<sup>(11)</sup>したがって Nick が *Gatsby* を介して自分が Wolfshiem との関係に巻き込まれる危険について考えをめぐらす機会もないのである。

この仕事の紹介は、Nick の *Gatsby* に対する信用度や距離感を物語る重要な出来事である。Wolfshiem とのつながりから *Gatsby* をどの程度に危険な人物と Nick が考えていたかを読者に語る機会でもある。この加筆は Nick が読者に提供する *Gatsby* の人物像において大きな効果があったといえるだろう。

また、*Gatsby* は Nick に仕事は何をしているのかと聞かれたあと、つい“That's my affair”(67)と無愛想に答えてしまってから、“I was in the drug business and then I was in the oil business. But I'm not in either one now.” (71)と以前の仕事の内容についての説明をする。(もっとも Nick がこれをどの程度信用したかはわからないが)

しかし *Trimalchio* の Nick は *Gatsby* に君は遺産を相続したのだと思ったというのみで、仕事の内容をたずねはしない。<sup>(12)</sup> *Gatsby* の仕事に対する Nick の好奇心が浅く、またそのため、*Gatsby* は仕事について聞かれるのは都合が悪いこと、それが片手間のものであると強調したいことを読者に示す機会もないのである。

そして Daisy が *Gatsby* の屋敷で彼女に関する記事のスクラップを見ているとき、*Gatsby* に仕事の電話がかかってくるが、その話の内容は、*Gatsby* のもののほうがより細かく書かれている。場所は“a small town”(73)でなければならないなど、*Gatsby* が何かしら後ろ暗い仕事に関わっている印象を Nick や読者に与える。まずは *Gatsby* での電話での会話を見てみたい。

They stood side by side examining it. I was going to ask to see the rubies when

the phone rang, and Gatsby took up the receiver.  
"Yes. . . . Well, I can't talk now. . . . I can't talk now, old sport. . . . I said a small town. . . . he must know what a small town is. . . . well, he's no use to us if Detroit is his idea of a small town. . . ."  
He rang off. (*Gatsby*, 73-74)

しかし *Trimalchio* ではこのような細部での描写が不十分であり、*Gatsby* がどのような仕事に関わっているかを Nick や読者が推測することが困難になっている。

They stood side by side examining it. I was about to ask to see the rubies when the phone rang and Gatsby took up the receiver.  
"I can't talk now. . . . Not today. . . . No, not possibly. . . . All right. Goodbye!"  
(*Trimalchio*, 75-76)

*Trimalchio* においては全体を通じて *Gatsby* の仕事に対する説明が少なく、*Gatsby* の後ろ暗さが効果的に描かれていなかった。しかしそれは *Gatsby* においては、Nick との仕事の申し出についてのやりとりによって、*Gatsby* は違法な仕事に関わっている人物としてより明確な輪郭をもつことになり、またそれを追求されるのは都合が悪いという弱点もより明確になった。そしてその背景は、Tom との対決において不可欠なものであった。

#### Rewriting of the Confrontation Scene

*Trimalchio* から *Gatsby* にいたるまでに特に大きな書き直しが行われたのは第7章の *Gatsby* と Tom の対決の場面(Confrontation Scene)である。最終的に Daisy が Tom を選ぶという結末には変わりはないのだが、*Gatsby* の中では、劣勢になった *Gatsby* を Tom は以下のように追い詰める。

"He and this Wolfshiem bought up a lot of side-street drug-stores here and in Chicago and sold grain alcohol over the counter. That's one of his little stunts. I picked him for a bootlegger the first time I saw him, and I wasn't far wrong."  
(*Gatsby*, 104)

*Gatsby* はこれに対し "What about it?"(104) といふものの、その表情は "killed a man"(105)な様相を呈しており、いくら自己弁護を図ろうとも Daisy は "drawing further and further into herself"(105) してしまい、*Gatsby* の敗北が決定付けられるのであった。

ところが *Trimalchio* では、Tom による Wolfshiem との関係や違法な仕事の暴露はないのである。<sup>(13)</sup> *Gatsby* にとって自分が酒の密売に関わっていることを Daisy に知られるのは不都合であり、それを Tom に暴露されることなしに敗北するのはどこかしら決定打に欠ける印象を与える。*Gatsby* が Wolfshiem と関係を持ち、違法な仕事に関わっているという事実は、Daisy を彼から遠ざける大きな要素であったに違いないのだ。

このように、*Trimalchio* の confrontation scene においては Daisy が Gatsby を裏切って Tom を選ぶことに対する説得力が弱い。そしてこの欠点は、全体を通じて Gatsby の仕事に対する説明が不足しているために一因があるといえる。

ところで口論が決着した後、*Trimalchio* では Tom は Gatsby と Daisy に “‘It’s pretty late. You two start on home’ – he indicated his wife and Gatsby – ‘in the circus – in Mr. Gatsby’s car.’” (*Trimalchio*, 107) と指示するが、そのときに “You wanted to talk to her and here’s your chance. But I think you understand now that you’re talking to my wife.” (107) とそのように指示した理由をはっきり述べている。一方で *Gatsby* では Tom は “‘You two start on home, Daisy,’ said Tom. ‘In Mr. Gatsby’s car.’” (*Gatsby*, 105) というだけで、二人で帰るように指示した理由は述べられておらず、Daisy の不安そうな様子がより際立つようになっている。Fitzgerald は、作品の成立に不可欠な背景を加筆しながら、一方で細かいやりとりにおいて効果的な省略も行っていたのである。

## 結論

このように、Early Version である *Trimalchio* と完成版である *The Great Gatsby* を比較すると、主人公 Jay Gatsby の仕事や過去をどの程度明らかにし、またどの程度謎に包まれたままにしたかという点で大きく異なっている。そして Fitzgerald が *Trimalchio* で目指したであろう、主人公 Gatsby の謎に包まれた人物像が作品の弱さとなってしまっていたことがわかる。そしてそれは *Gatsby* においては大幅に改良され、その結果 Jay Gatsby は短編の主人公たちとは異なる個性と、Revelation と Mystery の絶妙なバランスを備えたアメリカ文学史に残る卓越した登場人物となった。

*Gatsby* は非常に均整の取れた完成度の高い作品だが、それは決して第 1 稿から出来上がっていたわけではなく、編集者 Max Perkins の的確な助言と Fitzgerald のまさに労を惜しまない (painstaking) 書き直しによって完成されたものである。Fitzgerald の文体は流麗、天才肌という言葉をもって称されることが多いが、その裏に隠された、妥協を許さない努力の積み重ねを見落としてはならない。

## Notes

- 1) Matthew J. Bruccoli は以下のように述べている。  
The failure of *The Vegetable* terminated Fitzgerald’s serious interest in the stage and its financial rewards. (*Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed*, 183.)
- 2) See *Gatsby*, 206-208.
- 3) Matthew J. Bruccoli は以下のように述べている。  
O’Kelly can accept the mutability of love, but Gatsby will insist on nothing less than total restoration. He wants the same love twice: “Can’t repeat the past?” he

- cired incredulously. ‘Why of course you can!’”  
 (Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed, 187.)
- 4) F.L. Langman は以下のように述べている。  
 At one stage in the composition of the novel, Fitzgerald had proposed to begin with a story about Gatsby’s boyhood which would have established his background and his motivation. (*Critical Essays on F. Scott Fitzgerald’s The Great Gatsby*, 42.)
- 5) See *Some sort of Epic Grandeur*, 187-188.
- 6) See *Some sort of Epic Grandeur*, 187-188.
- 7) Kenneth E. Eble は以下のように述べている。  
 The “old sport” phrase which fixes Gatsby as precisely as his gorgeous pink rag of a suit is to be found in only one section of the pencil draft, though it must have been incorporated fully into his speech before Fitzgerald sent off the manuscript. (*Critical Essays on F. Scott Fitzgerald’s The Great Gatsby*, 90.)
- 8) Maxwell Perkins は 1924 年 11 月 20 日付の書簡で Fitzgerald に対し、Tom Buchanan に比べると Gatsby の個性が弱いと指摘し、以下のような提案をしている。  
 Couldn’t he [Gatsby] be physically described as distinctly as the others, and couldn’t you add one or two characteristics like the use of that phrase “old sport”, - not verbal, but physical ones, perhaps. (*Trimalchio*, 186, 下線は原文)
- 9) Kenneth E. Eble は以下のように述べている。  
 Fitzgerald chose the most elusive of physical characteristics- Gatsby’s smile. (*Critical Essays on F. Scott Fitzgerald’s The Great Gatsby*, 90.)
- 10) Maxwell Perkins は上記 8) の書簡で、続けて以下のように指摘している。Gatsby が Wolfsheim との関係から大金を得ていることを作品の結末で明らかにしているが、Perkins はその伏線になりえる記述を作品のいたるところに書き入れたほうがよいと提案している。  
 The other point is also about Gatsby: his career must remain mysterious, of course. But in the end you make it pretty clear that his wealth came through his connection with Wolfsheim. You also suggest this much earlier. Now almost all readers numerically are going to be puzzled by his having all this wealth are going to feel entitled to an explanation. To give a distinct and definite one would be, of course, absurd. It did occur to me though, that you might here and there interpolate some phrases, and possibly incidents, little touches of various kinds, that would suggest that he was in some active way mysteriously engaged. [...] The total lack of explanation through so large a part of a story does seem to me a defect; · or not of an explanation, but of the suggestion of an explanation. (*Trimalchio*, 187, 下線は原文)
- 11) See *Trimalchio*, 67.
- 12) See *Trimalchio*, 73.
- 13) See *Trimalchio*, 105-107.

## Bibliography

- Bloom, Harold. *Gatsby: Major Literary Characters*. Chelsea House Publishers, 1990.
- Bruccoli, Matthew J. *New Essays on The Great Gatsby*. Cambridge Univ. Pr, 1985
- Bruccoli, Matthew J. *Some Sort of Epic Grandeur: The life of F. Scott Fitzgerald 2nd ed*. Univ of South Carolina Pr, 2002.
- Donaldson, Scott. *Critical Essays on F. Scott Fitzgerald’s The Great Gatsby*. G.K. Hall & Co, 1984.
- Fitzgerald, F. Scott. *The Great Gatsby: Cambridge Edition of the Works of F Scott Fitzgerald*. Matthew J. Bruccoli ed. Cambridge Univ Pr, 1991

Fitzgerald, F. Scott. *The Short Stories of F. Scott Fitzgerald: A New Collection*.

Matthew J. Bruccoli ed. Scribner, 1989.

Fitzgerald, F. Scott. *Trimalchio: An Early Version of The Great Gatsby*. L. W. West III ed. Cambridge Univ Pr, 2000